

第4期富山県食育推進計画の進捗状況の概要

<基本目標>

「県民の健康で豊かなくらし」と「持続可能な食」の実現

推進施策	主な指標	これまでの主な取り組み	今後の方向性
I 多様なライフスタイルに対応した食育県民運動の展開			
<p>1 食育推進運動の展開と推進体制の充実</p> <p>◇新たな日常やデジタル化に対応した食育推進運動の展開</p> <p>◇食育推進体制の充実</p> <p>◇SDGsの理念を踏まえた食育の推進</p>	<p>上段は目標値 (R8) 下段は直近値 () は前年・前回値からの増減</p> <p>○「食育」に関心がある県民(成人) 目標：95%以上 R 6：92.1% (▲1.4%(R5))</p> <p>○カロリーやバランスを考えた食事をする県民(成人) 目標：70%以上 R 6：54.2% (▲5.4%(R5))</p> <p>○富山型食生活を実践している県民(成人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯を1日に1回以上食べる 目標：100% R 3：92.4% (▲1.5%(H28)) ・野菜を1日に350g(小鉢5皿程度)取る 目標：50%以上 R 3：21.3% (▲5.4%(H28)) ・魚介類を1日に1回以上取る 目標：80%以上 R 3：98.3% (+29.9%(H28)) 	<p>◇デジタル化に対応した食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山型食生活レシピを富山短期大学と共同で作成し、YouTubeで発信 ・SNSを活用した富山型食生活レシピの発信 (Youtube、Instagram)  <p>富山型食生活レシピ動画</p> <p>◇食育推進体制の充実、SDGsの理念を踏まえた食育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「栄養の日(8/4)・栄養週間(8/1-8/7)」を中心とした栄養バランスの良い食生活の普及・啓発 ・各地域(厚生センター)による食育推進連絡会や研修会・出前イベント等の実施(7回) 関連教材の整備・貸出し(40回) ・食育リーダー(栄養士等64人・団体(2団体)が登録)の研修(年2回)及び地域の講演会・研修会への派遣(90回) ・県栄養士会とも連携し、イベント会場や県内大学、専門学校等でのベジチェックによる野菜摂取量測定会など野菜摂取の啓発、咀嚼に関する内容を含む「口から食べることの大切さ」に関する研修の実施 ・県・農業法人協会やJA中央会と連携し、米の生産コスト上昇の現状や県産農産物・生産者を知ってもらうイベントの開催やSNSでの配信(イベントを通じた食育の啓発)  <p>食育リーダーによる給食担当者への栄養講習</p>  <p>消防学校学生向け災害時の栄養補給講義</p>  <p>ベジチェックによる野菜摂取量測定会</p>  <p>生産コストに関するチラシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を中心にデジタル活用による食育の情報発信、普及・啓発 ・富山県栄養士会や富山県食生活改善推進協議会等の関連団体との連携による食育推進 ・各地域(厚生センター管内)での食育関係者の連携による取り組みの横展開や連携推進 ・イベント等での食育の啓発  <p>栄養の日イベントにおける栄養相談</p>

II 生活のあらゆる場面での心身の健康を支える食育の推進

2 家庭における食育の推進

- ◇望ましい食習慣の形成に向けた普及啓発
- ◇家庭における楽しい食生活の実践と支援
- ◇多様なライフスタイルに対応した取り組みやすい食育の推進

○朝食を欠食する県民の割合 (小学校5年生)
 目標：限りなくゼロに近づける
 R6：1.5% (▲0.2%(R5))
 (中学校2年生)
 目標：限りなくゼロに近づける
 R6：3.6% (▲0.3%(R5))
 (20歳代)
 目標：5%以下
 R3：6.7% (▲4.7%(H28))
 (30歳代)
 目標：5%以下
 R3：11.9% (+8.1%(H28))

3 学校・保育所等における食育の推進

- ◇学校給食等を通じた食育の推進
- ◇家庭・地域等と連携した食育の推進
- ◇豊かな農林水産資源を生かした食の体験の推進

○家族で朝食また夕食を取る県民 (成人)
 目標：95%以上
 R6：94.7% (▲0.6%(R5))
 ○脂肪から摂取するエネルギー比率 (20歳代)
 目標：20%以上 30%未満
 R3：28.2% (▲0.1%(H28))
 (30歳代)
 目標：20%以上 30%未満
 R3：28.7% (+1.6%(H28))

4 地域・職場における食育の推進

- ◇地域全体で食育に取り組む体制の充実
- ◇健全な食生活や生活習慣の確立に向けた食育の推進
- ◇健康寿命延伸に向けた食育の推進
- ◇地域における共食の推進
- ◇災害に備えた食育の推進

○食塩の1日当たりの摂取量 (男性)
 目標：7.5g 未満
 R3：12.1g (+1.1g (H28))
 (女性)
 目標：6.5g 未満
 R3：10.3g (+1.2g (H28))
 ○肥満者 (20～60歳代男性)
 目標：25%以下
 R3：31.8% (+2.3%(H28))
 ○低体重者 (20～30歳代女性)
 目標：15%以下
 R3：14.8% (▲8.3%(H28))
 ○低栄養傾向 (BMI20以下) の高齢者の割合
 目標：20%以下
 R3：18.3% (+3.2%(H28))

◇望ましい食習慣の形成

- ・「食育ランチマット」(7,091部配布) や「食育啓発カレンダー」(630部配布) を活用した「毎日しっかり朝ごはん運動」の推進
- ・「とやまゲンキッズ作戦 健康づくりノート」を活用した、子どもの望ましい生活習慣や食習慣の形成に向けた啓発



食育啓発カレンダー (県内小・中・高・特別支援学校に配布)



食育ランチマット(小学1年生全員配布)

◇家庭における楽しい食生活

- ・「とやま子育て応援団」制度 (協賛店舗数1,980) の推進による「家族そろっての食事」の普及・啓発

◇学校給食等を通じた食育、食の体験

- ・栄養教諭を増員 (R6：60人→R7：62人) し、学校給食を「生きた教材」として活用した食に関する指導の充実
- ・農業体験や生産者との会食、学校給食への県産食材の活用拡大に向けた体制整備等、学校・家庭・地域が連携した取り組みを実施
- ・地元の農産物や県内食材を積極的に使用する「学校給食とやまの日」を実施
- ・オーガニック給食の提供による食育推進 (6市町村、県立特別支援学校 (4校))



栄養教諭による授業風景



学校給食とやまの日(入善町の献立)



農業体験をする児童

◇家庭・地域等と連携した食育

- ・子育て世代を対象とした食育講座への食育リーダー派遣等により、家庭内での望ましい食習慣の形成を推進

◇地域での食育、健全な食生活・生活習慣の確立

- ・若者世代を対象とした食育講座や調理体験等の食育実践活動の開催 (5回、190人参加)
- ・地域住民対象の「とやま食生活改善クッキング」の開催 (30回、741人)



クッキングテキスト



若者向け調理教室

◇健康寿命延伸に向けた食育

- ・高齢者を対象とした食と健康や正しい食習慣に関する食育講座への講師の派遣
- ・高齢者の食支援を担う人材育成の講習会の開催や、低栄養予防の普及啓発媒体の作成・配布
- ・地域高齢者等の健康支援に活用できる「配食サービス事業者一覧表」を作成し、県HP等で周知

◇共食

- ・子ども食堂の設置支援 (R7.11における県内の子ども食堂数：85箇所)



子ども食堂

◇災害に備えた食育

- ・食育リーダーによる災害活動時における栄養補給等の講座の実施 (2回)

- ・HP や給食便り等を活用した、親子でできる朝食レシピ等の掲載や、学校における食に関する指導の事例紹介など、積極的な情報発信による家庭との連携

- ・「とやま子育て応援団」制度の推進による、「家族そろっての食事」の普及・啓発

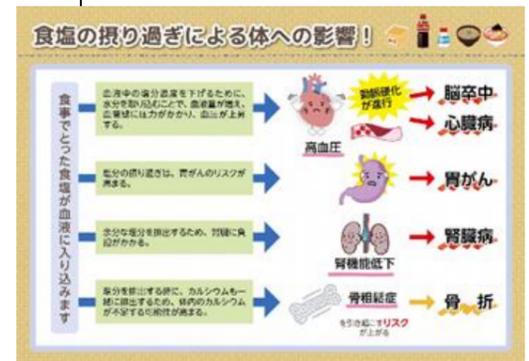
- ・教科等における授業や給食の時間における、充実した「食に関する指導」の実践

- ・HP や給食便り等を活用した積極的な情報発信や、学校給食試食会等の実施による家庭との連携

- ・主食・主菜・副菜のそろった食事、食塩摂取量の減少、野菜摂取量の増加など、望ましい食生活の実践に向けた普及啓発

- ・関係団体との連携による地域高齢者の食支援を担う人材の育成及び、フレイル予防に関する情報発信・普及啓発

- ・配食を通じた地域高齢者等の健康支援などの食環境整備の推進



低栄養予防の普及啓発に関するリーフレット

Ⅲ 持続可能な食を支える食育の推進

5 地産地消や食の循環、環境に配慮した食育の推進

◇地産地消を通じた農林水産業への理解促進

◇学校給食を通じた県産食材への理解増進

◇生産者と消費者の交流促進

◇食品ロス等の発生を減らす食生活の推進

○県産品を意識して購入する県民の割合
目標：80%以上
R 7：56.9% (+0.2%(R3))

○直売所・インショップ販売額
目標：45億円以上
R 6：43億円 (+0.4億円(R5))

○地産地消アプリ「食ベトクとやま」ユーザー数
目標：8,000人以上
R 6：10,154人 (+1,655人(R5))

○学校給食における県産食材の活用率(野菜・果実等)
目標：32%以上
R 6：20.9% (▲2.2%(R5))

○農林漁業体験者数
目標：74,200人以上
R 6：89,797人(+10,243人(R5))

◇地産地消

- ・地場農産物の生産拡大支援とHP等での直売所・インショップの紹介
- ・「とやまの旬の応援団」の募集・登録(7,367個人・団体)・活動支援
- ・「とやまグルメ・フードフェス」での富山の食材や越中料理の紹介
- ・「地産地消キャンペーン」(応募数9,920件)とアプリを活用した旬情報の発信
- ・地場産品活用の商品開発や直売に取り組む**農村女性の起業支援**(女性起業243件)

◇学校給食

- ・学校給食での県産食材活用拡大に向け、「富山の野菜 旬のカレンダー」の作成・配布(800部)、**市町村農林水産担当者と栄養教諭等を対象とした研修会・意見交換会**(農林水産部と教育委員会との共同開催)(8/26)、生産者と学校給食関係者のマッチング
- ・富富富の学校給食での提供(R6:979トン)
- ・**水産業への理解醸成**に向けた高校生等への魚食セミナーの開催(15回)、県内小学5年生への副読本の配布、学校給食への魚の提供(17万4千食)



富山の野菜 旬のカレンダー



研修会・意見交換会(8/26)

◇生産者と消費者の交流

- ・魚さばき体験や酪農体験などの農林漁業体験や地域との交流等を通じて田舎暮らしを体験できる「とやま帰農塾」の開催

- ・「つながる!ファーマーズフェス」を開催し、**生産者と消費者の交流を促進**するとともに、食育について発信

来場者：第1回(11/22)約600人 第2回(12/20)約800人

インフルエンサーと生産者のトークショーや農産物オークション、農産物ガチャ、県栄養士会によるベジチェックなどを実施

(生産者の生の声を消費者に届けることで生産コスト上昇の現状や地産地消の重要性を普及・啓発)

・イベントでの主な意見

(生産者)：消費者の直接の声が自分たちの励みになる
消費者と交流できる機会を増やしたい

(消費者)：農家と対話しながら買えて楽しい
県内農産物を買って農家を応援したい



つながる!ファーマーズフェス

- ・**県内農家出演動画「買って食べて とやまの生産者を応援！」**の制作・配信(R7.12.22時点：7.8万回再生)

県内農家が出演する5種類の動画(白ねぎ・米・小松菜・玉ねぎ・里芋)を制作し、デジタル広告により農業生産の現状や生産へのこだわり・農産物の特長などを県民に広く伝えた



県産品に貼られる地産地消シール

- ・「食ベトクとやま」を活用した**積極的な情報発信**や「地産地消キャンペーン」の拡充
- ・「とやまグルメ・フードフェス」での富山の食材や料理の紹介

- ・県と市町村、コーディネーターによる意見交換(情報共有)

- ・学校給食における県産食材の**供給体制の整備**(情報共有、流通ルート)

- ・若い世代を中心に、**農業体験を通じて農業や食への関心を高める**

- ・**生産者と消費者の交流を通じた相互の情報共有**



農家出演動画

	<p>○食品ロス削減のための取り組みを行っている県民の割合 目標：90%以上 R6：90.5% (+2.1%(R5))</p>	<p>◇食品ロス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商慣習見直しに係る実務研修会を開催 ・「食べきり3015運動」協力店 (727店) 及び「食べきりサイズメニュー」導入店 (801店) ・「すぐ食べるなら！食ロスゼロキャンペーン」を通じた食品ロス削減の県民への周知 ・食品ロス削減推進計画ハンドブック、商慣習見直し事例集、子ども向けパンフレット作成 ・小学校での食品ロス学習 (10歳児対象、R6:67校、3,039人) ・フードドライブの推進 (R6：45団体 15市町村で93件実施 (イベント44件、常設49件)) ・フードバンク活動の拡大 (賛同企業数 R7.11月時点43社、マッチング件数 R7.11月時点：26件) ・子育て世帯等に向けたキャラクターを活用した動画による食品ロス削減の啓発 ・サルベージ・パーティ(家庭で余っている食材を持ち寄って料理するイベント)の推進(R6:7回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる削減に向け、フードチェーン全体での取り組みを推進 ・世代・ライフスタイルに応じた普及啓発により県民の取り組みを促進 ・フードバンクの利用促進に向けた地域や団体との連携推進及びフードドライブの認知度向上に向けた啓発等
<p>6 魅力ある食文化の継承・創造</p> <p>◇富山の伝統的な食文化の継承</p> <p>◇新たな食文化の創造</p>	<p>○「とやま食の匠」の伝承活動参加者数 目標：400人以上 R6：103人 (+20人(R5))</p> <p>○「富山県ふるさと認証食品」新規認証数 目標：10商品程度 R5：15商品 (R6～新規募集休止中)</p>	<p>◇食文化の伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とやま食の匠」の登録 (190個人・団体：特産の匠80、伝承の匠59、創作の匠51)、とやま食の匠による教室の実施 (5回、103人参加) ・「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催 (71回実施、2,392人参加) <p>◇新たな食文化の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県ふるさと認証食品のイベントやホームページ等でのPR (累計認証数(R6.3時点)：42品目・390商品) ・地域の農林水産物を活用した加工・直売等の6次産業化の取り組みを支援 (5件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の魅力発信事業にてHPをリニューアルし、制度発信を強化 ・SNS等での発信を中心に制度のPRを実施 ・地産地消キャンペーンと連動させた制度のPRを実施
<p>7 食の安全確保の推進</p> <p>◇安全な農林水産物等の供給</p> <p>◇食に関する情報の理解促進</p>	<p>○食品表示が適正な店舗の割合 目標：100% R6：95.7% (▲1.2%(R5))</p>	<p>◇安全な農林水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品表示講習会の開催、研修会等への講師派遣により、食品関連事業者等への適正な食品表示を指導(R6：7回) ・「食品表示ウォッチャー」による食品表示実態調査の実施 (R6：1,070店舗) <p>◇食に関する情報の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品安全フォーラムの開催 参加者163名 (会場87名、オンライン76名) R7テーマ：「相手を知って正しく対策！ノロウイルス食中毒」 ・「とやまグルメ・フードフェス」で食品安全に関する情報発信 (R7：1,217名) ・食の安全・安心ホームページの運営 (食品安全や表示等に関する情報提供) ・高校生への食品表示制度の普及・啓発：県内4高校 (R7.12月時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点指導業種への指導強化 ・食品表示ウォッチャーによる食品表示監視業務の継続 ・消費者へのリスクコミュニケーションの場の拡大、若い世代への啓発



「食べきり3015運動」配布ポスター



高等学校でのフードドライブ



食の匠による水だんごづくり教室



6次産業チャレンジ支援事業 開発商品



食品表示実態調査



食品安全フォーラム